

袖の庵主・尼さんの崇り

上手渡地内上松葉の南となりの袖というところがあります。そこにみすばらしい小さい庵寺があり、ひとりの尼さんが住んでおりました。健康すぐれず寝たり、起きたりして日を送っておりました。どちらかという人と人によく思われない性質の女性で、親しんで近寄ってくる人々もありませんでした。

たべるものにも事を欠き、薬を与えるものもありませんでした。そのうちに病がひどくなり人を恨み、地主を憎みながら死んでゆきました。すると地主も病気をしたので、神おろしをして聞いてみると、尼さんの崇りだということでした。早速神に祠り、古屋の氏神春日神社に合祀したということである。